社会福祉法人　農協共済
別府リハビリテーションセンター

ゆのはな

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

第10号
2018. 11.1
BRCだより

別府リハ秋まつり2018

10月28日（日）に「別府リハ 秋まつり 2018」を開催いたしました！
今回は今までのお楽しみイベントも残しつつ、当センターをより知っていただくための催し物をプラスし、会場も「みょうばんクリニック」から「本館・体育館周辺」へと移し行われました。
本館会場では「事業紹介ブース」や「学生向けのセミナー・見学会」、「筋肉量測定」、「お薬相談」「福祉用具展示」などが行われ多くの方々で賑わいました。
また、体育館会場ではJAべっぷ日出の「直売会」や地域の方々による「ステージイベント」、くじ引きや輪なげなどで遊べる「ちびっこ広場」、豪華景品が当たる「ガラポン抽選会」などのイベントが数多く催され、訪れた皆さまに楽しんでいただきました。
最後になりますが、ご来場された方やご協力いただいた皆さまに心からお礼を申しあげます。

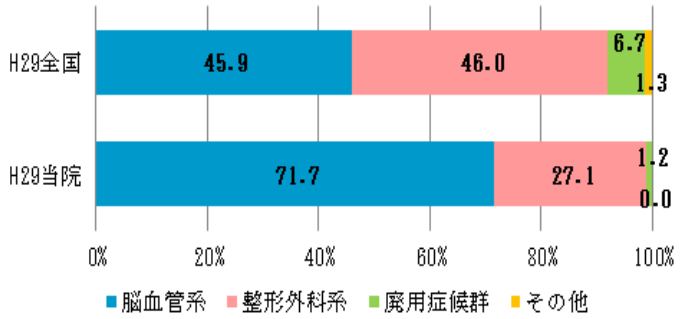
別府リハ　秋まつり　2018　実行委員会事務局

回復期リハビリテーション部　リハ課　課長補佐　黒瀬　一郎

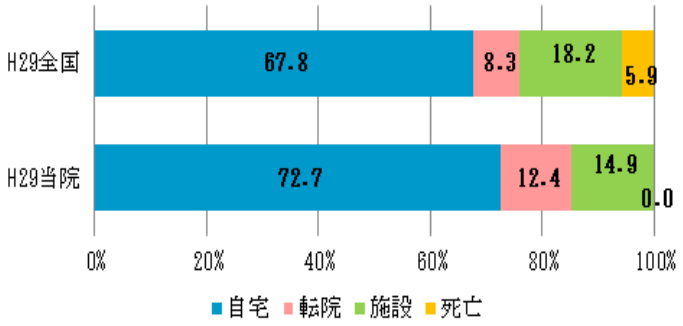
今年の「別府リハ秋まつり」では、回復期リハビリテーション部、診療部、地域連携室、安全管理室が合同で2つのイベントを行いました。
ひとつ目は、地域住民の方を対象にした「健康体験 ～医療福祉コーナー～ 」です。
このコーナーでは自分の筋肉の量を知る事ができる「筋肉量測定」、摂食・嚥下障害看護認定看護師による「ごっくん体操」、感染管理認定看護師による手洗いチェッカーを用いた「手洗い指導」、大分県社会福祉介護研修センターの理学療法士による「福祉用具の紹介」が行われました。
お越し頂いた皆さんは熱心にご自身の測定結果をご覧になられ、体操や手洗い方法等を担当者に聞いていらっしゃいました。福祉用具の展示ではメンタルコミットロボットの「パロ」や「スマイビー」の周りに小さなお子さんがたくさん集まり、見ている担当者も癒されていました。おかげさまでどのコーナーも大変盛り上がりました。
ふたつ目は、医療・福祉関係者の方向けに行った「病院見学会」です。
見学会ではパネルを用いて当センターの回復期リハビリテーション病棟の紹介を行った後、実際に訓練室や病棟の見学を行って頂きました。
参加された方からは「環境の良さに驚きました」「今後は病院同士の関わりをもっと持ちたいと思いました」等の感想を頂きました。別府リハの魅力を体験頂けたと担当者も嬉しく思っています。
今回は参加された方も担当者も楽しめたイベントだったと思います。ご協力ありがとうございました。

回復期リハビリテーション病棟に関する実績と全国比較

原因疾患割合

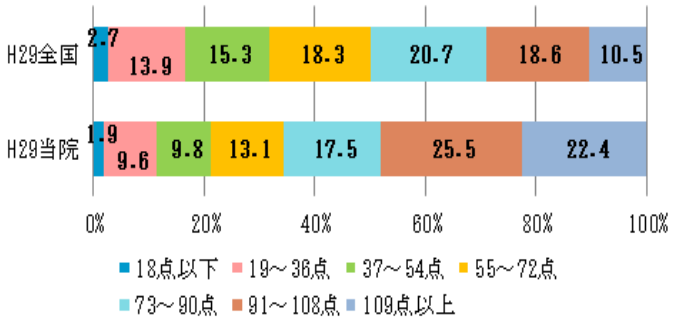


退院経路

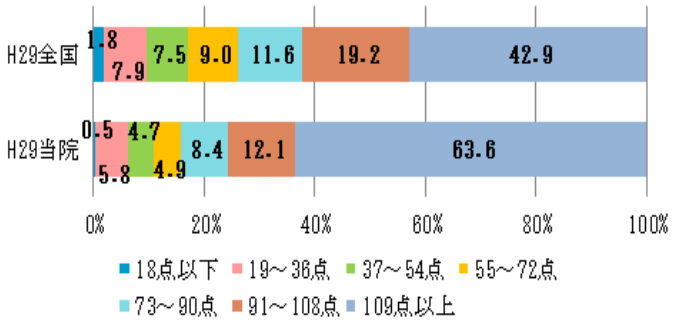


ＦＩＭ（機能的自立度評価）

入院時



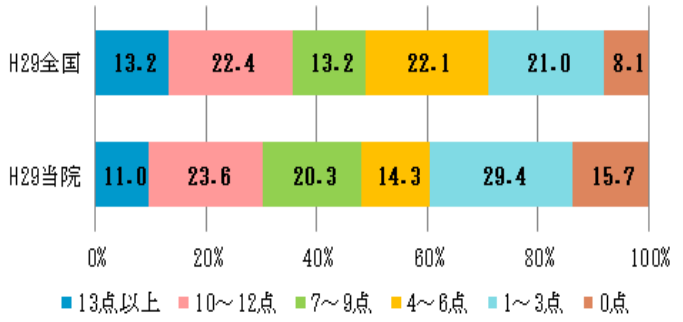
退院時



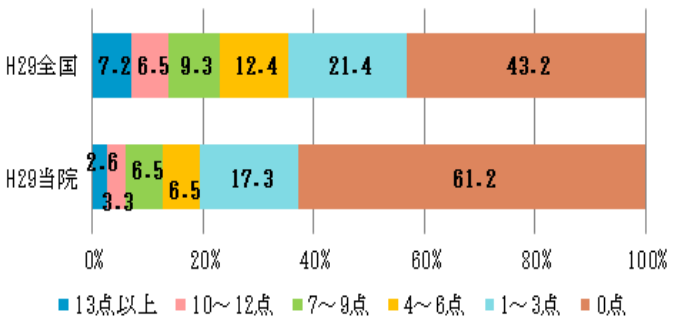
機能的自立度評価（ＦＩＭ；Functional　Independence　Measure）とは
　この評価は、主に介護量を測定するもので食事や整容などの「運動ＡＤＬ」13項目と、社会的交流や記憶などの「認知ＡＤＬ」5項目を、介護量に応じて7段階、126点満点で評価します。米国での研究において信頼性と妥当性が検証されており、我が国でも医療や介護の分野などで幅広く活用されています。
＊ADL：日常生活動作/食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など生活を営む上で不可欠な基本的行動のこと。

日常生活機能評価

入院時

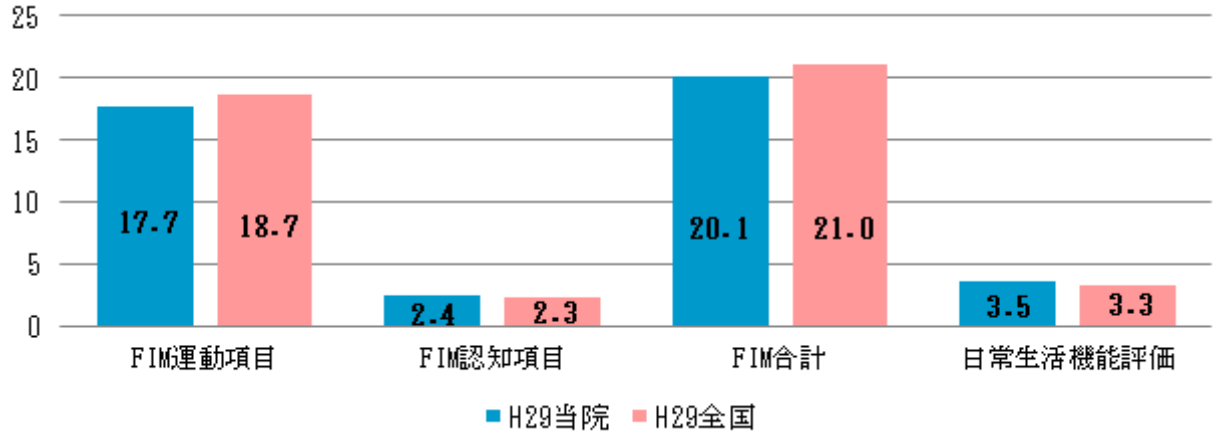


退院時



日常生活機能評価とは
この評価方法は、入院患者の日常生活自立度を測定するもので、起き上がりや移乗・食事摂取などの13項目を「できる」・「できない」・「一部介助があればできる」などの状況で評価し点数をつけます。合計点数の最大値は19点で、点数が低いほうが“自立度が高い”と評価されます。

ＡＤＬ（日常生活動作）利得の平均値

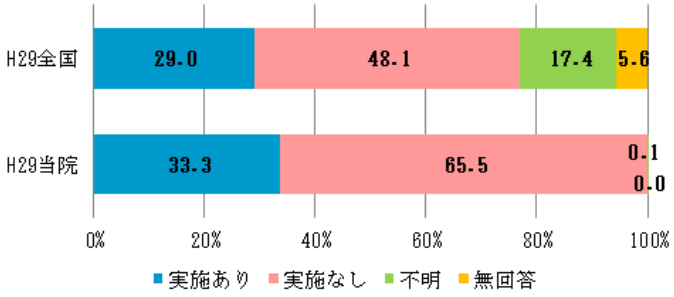


◆ 自宅復帰の割り合いは72.7％と全国平均よりも高い値でした。FIM利得は全国平均よりもわずかに低い値となりましたが、日常生活機能評価の利得では全国平均よりも高い結果となりました。
◆ 今後も専門職協働によるリハビリテーション・ケアを充実させ、利用者（患者・家族）から当院を選んで良かったと思って頂けるよう、取り組んでいきます。

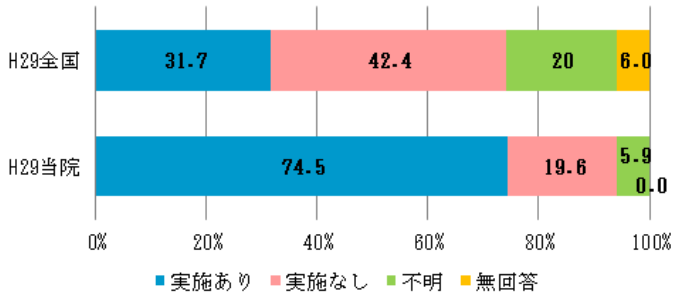
退院後のリハビリテーション継続状況

自宅、居住系施設、介護老人福祉施設へ退院された方の、退院後のリハビリテーション実施状況（外来リハビリテーション・通所リハビリテーション等）を下記に記載しています。

全患者



退院時FIM運動項目21～75点の方



◆ 回復期リハビリテーション病棟退院後の、円滑な通所リハビリテーション等への移行が、平成30年度診療報酬改定等にて課題として挙げられています。
◆ 当院では、退院後も少しでも体の動きが良くなるように、また、体力や生活レベルが維持できるように、必要な方に対して、外来リハビリテーションや通所リハビリテーションを案内しています。
◆ 特に退院後もリハビリテーションが必要とされる、退院時FIM運動項目21～75点の方に対しては、当法人の通所リハビリテーション施設等を積極的に活用し、よりよい在宅生活が送れるように支援しています。

自宅 でもできる！
かんたん エクササイズ

第5回

理学療法士　小田原幸治（おだわらこうじ）

肩痛 お困りの方へ

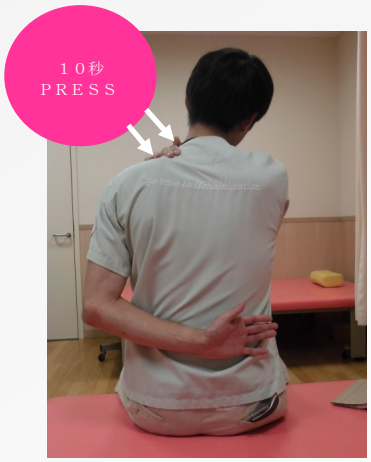
やってみようセルフ筋膜リリース!!

今回は肩こりについてご紹介します。首の後ろ～肩にかけては、僧帽筋と呼ばれるいわゆる肩こりの原因筋となっている筋肉があります。この筋肉が硬くなったり動きが悪くなると、いわゆる肩こりや首・頭痛と言った症状も出やすくなります。そこで、今回は僧帽筋の筋膜リリースをご紹介します。

1

左腕を腰の後ろあたりに回し、頭を右に傾ける。首の左側に伸びを感じるまで頭を右側に傾ける。

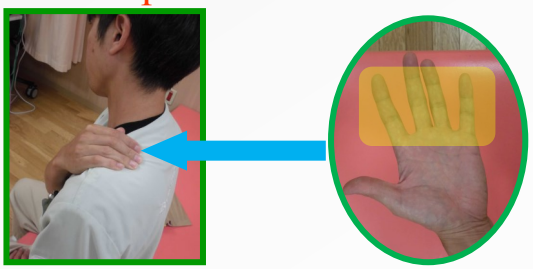
2



指全体を使い、首の付け根から肩までを順に押さえ、僧帽筋の筋膜を押し伸ばす。

3 反対側も同様に

Pick up!



POINT①
頭を傾ける角度を、真横、やや前、やや後方と少しずつ変えるとより広範囲の筋膜が伸ばせます。一か所10秒程度×2セットを目安に行って下さい。

POINT②
四指の第一関節から付け根まで全体を使い、圧迫するイメージで押さえる。前から後ろに押すようにすると、筋膜が押し伸ばされる感覚をつかみやすいです。

回復期リハビリテーション病棟での介護福祉士の役割

今回は、前回の「ゆのはな」でご紹介させて頂いた三大介護（食事・入浴・排泄）について詳しくお話しします。

当院では、食事に関しては摂食・嚥下に問題がある患者さんに対し、ポジショニングや摂食嚥下に関する間接訓練等を実施しています。より安楽な姿勢で食事をして頂くために足底接地を徹底し、すべての患者さんに声かけを行っています。

入浴に関しては更衣動作や洗体動作の向上を目標に一人ひとりに合った自助具を作成し、自立に向け取り組んでいます。また、入浴はリラックス出来る時間でもあるため、日頃の訓練の疲れが取れるようコミュニケーションを図りながらゆっくり入浴するように心がけています。

排泄では、必要に応じてアセスメントシートを活用することで、どの部分が不足しているのかを評価し、トイレで排泄が行えるように他職種と情報共有をしながら介入しています。

その他の活動として認知症を呈した患者に対し、認知症ケア専門士（CW）を中心にレクリエーションや安心して入院生活を送れるサポートを行っています。具体的には昔の遊び（けん玉、カルタ、おはじき、竹とんぼ、紙風船など）を一緒に楽しんだり、患者さんと一緒に季節を感じる掲示物を作成し病棟内の壁面を飾ったりしています。また運動会（玉入れ、模擬パン喰い競争等）を実施したこともあり、患者からとても好評でした。

今後も日常生活に介助を要する方や認知症の方達が安心した入院生活を送ることが出来るよう取り組んで行きたいと思います。

介護福祉士：石田明菜、渡邉いずみ

発行：　社会福祉法人　農協共済　別府リハビリテーションセンター
日本医療機能評価機構認定　／　日本リハビリテーション医学会認定研修施設

BRC Beppu Rehabilitation Center
〒874-8611　大分県別府市鶴見1026-10
TEL0977-67-1711　FAX0977-67-1712　http://brc.or.jp

製作：回復期リハビリテーション部　広報誌係